

《第3号》 *図書館の蔵書は誰がどうやって選んでいるの?*** <雑誌編>**

雑誌がピンチ!! 後編 前号では雑誌の購入中止にいたる原因と、それを絞り込む見直し小委員会の苦労話をお伝えしました。購読雑誌の選定を始めた平成10年までは、雑誌の貸出・複写の利用統計を取り、過去3年において利用回数の少ない雑誌をリストアップし、購入中止を決定。しかし、この方法に対して、講座内の人員数や研究分野が影響し、統計に片寄りが生じるとの意見や、1冊から複数論文コピーしても1回しかカウントされない。また、閲覧をしていた利用者からは、利用回数だけで中止を決定することは一方的すぎる等々、不公平を是正すべきとの意見が多く寄せられたことから、それまでの方法を改め、平成10年に見直し小委員会が発足し、現在の見直し方法になりました。見直し小委員会では、客観的に評価の高い雑誌をいかに選び、主題に偏りがいないか、また、選択すべき雑誌に漏れはないか、学内の研究者が必要としているものをどう残すか、毎回慎重に審議しています。また、Brandon、Core Clinical Journal、Johnson などのコアジャーナルリストやインパクトファクター(=IF)などによる客観的評価を基準に選択しています。

Brandon=1965年に初版刊行、米国、小規模医学図書館必須備付の基本蔵書リスト。

Core Clinical Journal=Index Medicus の Abridged List 版に掲載されている主要臨床雑誌のリスト。2003年まで「AIM」の名称。

Johnson=米国、カナダの非歯学系図書館必須備付推薦雑誌リスト。

IF=直前2年間における各雑誌1論文あたりの平均被引用回数のこと。

このように所蔵雑誌が減ると他大学や海外に必要な文献を依頼して取寄せすることになり、入手までに時間とコストがかかり、利用者が時間的デメリットと、情報の質を秤にかけなければならない可能性が出てきます。忙しい利用者や手間を惜しむ利用者にとっては、情報の質の低下、ひいては、大学全体のレベル低下につながる危険性が生じます。

以上、前・後編と2回にわたり雑誌の危機的状況をクローズアップしましたが、図書館での雑誌購入における切実な状況、ご理解頂けましたでしょうか。

ご意見・ご質問ございましたら、図書館 受入目録係 ukeire@lib.iwate-med.ac.jp まで。

*****図書館トリビア*****

図書館で所蔵している図書で一番大きい本は「A dendro-cyto-myeloarchitectonic atlas of the cat's brain」(65×52cm)〔請求記号 489.53/M31〕。また、最小本は「Langenscheidts Universal-Worterbuch Ungarisch」(10.7×7.7)〔請求記号 893.7/L54〕-分館所蔵-です。最大本には先日、著者ご本人から直筆サインを頂きました。本日より約1ヶ月本館3階に展示いたします。興味のある方は1度ご覧になってください(^-^)

メールマガジンに関する意見・質問は、運用係 unyo@lib.iwate-med.ac.jp まで。